

認定特定非営利活動法人 レスキューストックヤード

2018 年度

被災者支援活動報告書



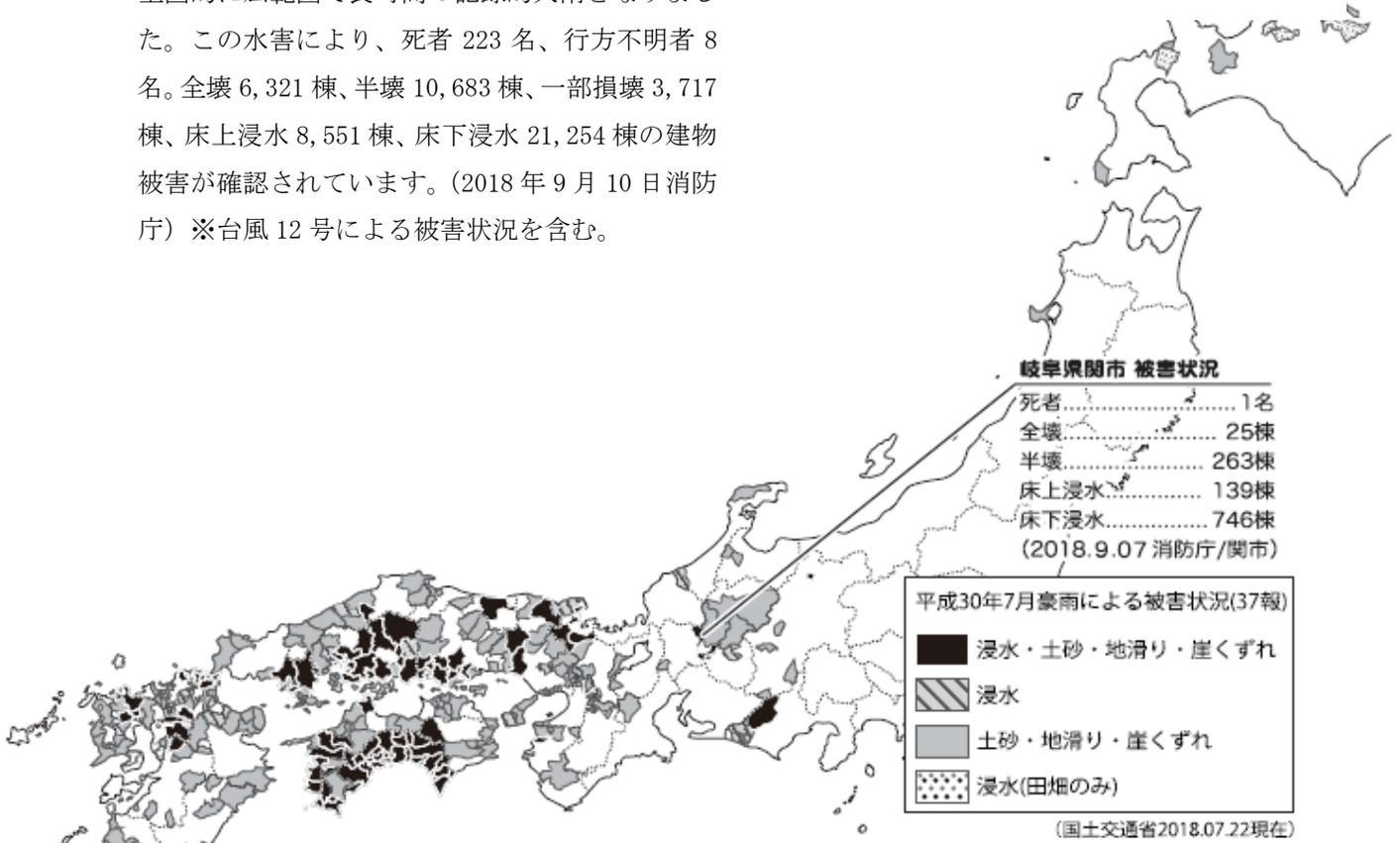
平成 30 年 7 月豪雨（西日本豪雨）

梅雨前線や台風 7 号の影響により、大雨となりやすい状況が続きました。6 月 28 日～7 月 8 日(9 時)までの総降水量が四国地方で 1800 ミリ、東海地方で 1200 ミリ、中国地方で 500 ミリを超えるところがあるなど、7 月の月降水量平年値の 2～4 倍となる大雨となったところがありました。

九州北部、四国、中国、近畿、東海、北海道地方の多くの地点で 24、48、72 時間の降水量が観測史上第 1 位を記録するなど、西日本中心としながら全国的に広範囲で長時間の記録的大雨となりました。この水害により、死者 223 名、行方不明者 8 名。全壊 6,321 棟、半壊 10,683 棟、一部損壊 3,717 棟、床上浸水 8,551 棟、床下浸水 21,254 棟の建物被害が確認されています。(2018 年 9 月 10 日消防庁) ※台風 12 号による被害状況を含む。

大阪府北部を震源とする地震

6 月 18 日(月)午前 7 時 58 分頃、大阪府北部の深さ約 13 km を震源とする マグニチュード 6.1 の地震が発生し、大阪府では大阪市北区、高槻市、枚方市、茨木市、箕面市の 5 市区で震度 6 弱、大阪府や京都府の 18 市区町村で震度 5 強の揺れが観測されました。この地震により、死者 4 名。大阪府では、全壊 14 棟、半壊 327 棟、一部破損 44,166 棟の建物被害が確認されています。(2018 年 8 月 8 日大阪府発表)



関市の概要

岐阜県中央部（中濃地方）に位置し、岐阜市に隣接、名古屋市から約40 km の距離にあります。人口は約8900 人、面積約472.00km²。2005年の合併により美濃市を挟むようにV字型の市域になりました。

700年余りの歴史と伝統を持つ刃物のまちとして知られ、毎年10月には刃物まつりが開催されています。ナイフ博物館や関鍛冶伝承館も見どころとなっています。また2016年には関市の新たな玄関口となる「関シティターミナル」が完成しました。高速バスや都市間バスなど乗り継ぎ拠点として、多くの人に利用されています。さらに災害時には緊急一時避難所としての機能を備えた、飲料水用備蓄槽などが完備されています。



活動カレンダー

大阪現地支援

水害現地支援

後方支援

2018年

- 6/18 おおさか災害支援ネットワーク (OSN) 世話役団体臨時会議 (第1回) にオブザーバー参加@大阪市
- 6/20 OSN 世話役団体臨時会議 (第2回) にオブザーバー参加
- 6/23 OSN 「災害時連携会議」参加
- 6/23-24 街頭募金活動@名古屋駅前 各日 15名/18名のボランティアが参加
- 6/27 高槻市において避難所統合に関する相談・助言
OSN 「災害時連携会議」参加
- 7/1 災害と向き合うための勉強会第1弾「見えにくい家屋の被害〜カビ対策〜」 in 茨木開催
- 7/4 災害と向き合うための勉強会第2弾「高所活動時の安全確保」 in 茨木開催
- 7/7~ 冊子「水害にあったときに」順次発送作業
- 7/9 災害と向き合うための勉強会第4弾「長持ちするシートの張り方」 in 高槻開催
避難所環境改善対応@岡山県倉敷市真備地区
名東倉庫から広島市へ資機材を搬出、23名のボランティアが参加
- 7/10 避難所巡回・実態調査@倉敷市
関市へ資機材を運搬
- 7/11 「第1回倉敷市 NPO 支援チーム会議」企画運営
関市災害ボランティアセンター情報共有会議出席
- 7/12 災害と向き合うための勉強会第3弾「長持ちするシートの張り方」 in 茨木開催
※7/5 中止の振替開催
避難所巡回・実態調査、環境改善について調整@倉敷市
名東倉庫から岡山県へ資機材を搬出、10名のボランティアが参加
関市上之保災害ボランティアセンター運営支援
- 7/13 「第2回倉敷市 NPO 支援チーム会議」企画運営
- 7/14 関市上之保災害ボランティアセンター運営支援
- 7/14-16 街頭募金活動@名古屋栄三越前。各日 16名/14名/21名のボランティアが参加
- 7/15-20 関市上之保災害ボランティアセンター運営支援
- 7/18 鳥屋市地区公民館にて「炊き出し&ミニ喫茶」実施
災害と向き合うための勉強会第5弾「長持ちするシートの張り方」 in 高槻開催
- 7/21-22 避難所環境改善対応@広島県坂町 (RSY 専門職アドバイザー佐々木氏)
- 7/24 関市社協主催「情報共有会議」に参加
- 8/4 自治会連合会富野支部「災害後の生活を考えるミニ相談会」企画運営@関市
- 8/5 自治会連合会武儀支部「災害後の生活を考えるミニ相談会」企画運営@関市
- 8/6 上之保地区サロン「こころとからだの健康サポート」運営サポート (記録)
- 8/8 関市社協「第1回関市ボランティアセンター (災害対応) 運営会議」参加
- 8/12 自治会連合会上之保支部「災害後の生活を考えるミニ相談会」企画運営@関市
災害と向き合うための勉強会第6弾「長持ちするシートの張り方」 in 摂津開催
- 8/17 富野地区サロン「ふれあい・いきいきサロン」運営サポート (足湯)
- 8/24 関市社協「第2回関市ボランティアセンター (災害対応) 運営会議」参加
- 8/27 茨木フェスタにて「家の相談会」ブース出展&シート張り講習会 開催
- 9/2 災害と向き合うための勉強会第7弾「長持ちするシートの張り方」 in 茨木 開催
- 9/8、9 RSY ボランティアバス運行@岐阜県関市。各日 10名/13名のボランティアが参加
- 9/9 自治会連合会富野支部「災害後の生活を考えるミニ相談会」企画運営@関市
- 9/10 関市社協「第3回関市ボランティアセンター (災害対応) 運営会議」参加
- 9/23、24 RSY ボランティアバス運行@関市予定
- 10/21、28 サロン運営サポート@関市予定

大阪府北部を震源とする地震

6月18日、早朝に震度6弱の揺れが発生。この地震は、瓦屋根がずれたり落下したことによる「一部損壊」世帯が非常に多いのが特徴でした。しかし、工務店等の建築業者は発注が殺到してパンク状態。そのため、住民がボランティアの協力を得て、雨漏りを防ぐためにブルーシートで屋根を保護する作業が急がれました。また、余震や雨漏りで自宅にいない被災者もあり、大阪府や京都府内では避難所が開設。6月21日、23日に開催された『おおさか災害支援ネットワーク（OSN）災害時連携会議』への出席がきっかけとなり、RSYは高槻市から依頼を受け、『JVOAD避難生活改善に関わる専門委員会』として、環境整備や住民による自主運営、避難所の統合や閉鎖

に向けた過去の被災地の実践事例や情報提供を行いました。また、『震災がつなぐ全国ネットワーク』と連携し、現地の活動団体の情報発信や、募金活動も行いました。



平成30年7月豪雨（西日本豪雨）—岡山県倉敷市—

6月28日から7月8日にかけて、台風7号と梅雨前線の影響で甚大な被害が発生した岡山県倉敷市。RSYは7月9日～13日、『JVOAD避難生活改善に関わる専門委員会』メンバーとして、特に被害が集中した真備町の避難所支援にあたりました。活動は、岡田小、菌小、二万小の生活実態調査として、トイレ・寝床・食事・衛生環境の整備状況や、住民の健康状態、外部支援者の動きを確認しました。その後、倉敷市災害対策本部からの依頼を受け、環境改善や住民による自主

運営への移行時期、避難所統合に向けた戦略検討などについて、過去の災害の事例紹介や情報提供を行いました。また、真備地区に支援に入っているNPOに呼びかけて情報共有会議を実施しました。以降は、「倉敷市NPO支援チーム」として連携・協力しながら共に活動することを申し合わせました。会議の場では、課題のすり合わせや、避難所の支援を希望する団体や市との調整役を担い、現在はその役割をJVOADに引継ぎました。



【専門家の協力】

(弁護士)

・永野弁護士（中央法律事務所）

※日本災害復興学会復興支援委員会より派遣協力頂きました

・澤弁護士（旭合同法律事務所）

・法テラス岐阜

(建築の専門家)

ニチハグループ FP コーポレーション様

・池内氏（FP コーポレーション）

・伊藤氏（イトー住建）

・津川氏（創建）

・脇田氏（協義建築）

【炊き出し&ミニ喫茶】

・なごや防災ボラネット

・RSY ボランティア

・移動販売車炊き出し支援協議会様（高山ラーメン、亀山みそ焼うどん、かき氷）100食を無料提供

・静岡県牧之原市「高柳製茶」様（500ml ペットボトルお茶）20 ケース提供

※牧之原市役所を通じてご提供頂きました。



【サロン・足湯】

自治会連合会各支部が主催する「災害後の生活を考えるミニ相談会」の会場の隣では、相談会後に住民の方々がほっと一息つけるよう休憩スペースを併設しました。炊き出しのあたたかい食事やコーヒーなどの飲み物、ボランティアによる足湯や小物作りを通して、住民同士や住民とボランティアとの交流の場となりました。時には相談会後も悩みを抱えている方に対し、再度個別相談の窓口案内したり、個別相談が終了した行政職員や専門家に休憩スペースに来ていた

だくなど、参加者に寄り添った対応を心がけました。

また地区社協と連携し、水害の影響で一時的に休止しているサロンなどの地域活動の支援を行っています。岐阜県や愛知県、静岡県の大学などの外部支援者との調整・サポートも実施しています。

地域活動が今後、本来の姿である地域住民が中心となる活動へと少しずつ変化していけるよう、引き続きサポートしていきます。



【ボランティアバス】

被災家屋の床下の泥だしや、仕上げのブラッシング作業のお手伝いとして、9月8、9日に関市へボランティアバスを運行しました。8日は11名、9日は13名の方が参加し、3軒の家屋で活動を行いました。初めて災害ボランティア活動に参加したという学生か

らは、「まだまだ大変だという事が分かってよかった。周りの人にも現地の様子を伝えていきたい。」という感想も。ボランティアバスは9月23、24日にも運行を予定しています。

震災がつなぐ全国ネットワーク

震災がつなぐ全国ネットワークでは、会員団体が大阪にあり、大阪府内での災害対応を協議するための会合があることを知り、6月18日の地震発生当日中に事務局1名が大阪入りし、いち早く情報収集に努めました。

大阪での被害の特徴は数字から見ても分かる通り、一部損壊が圧倒的に多く、屋根瓦のズレが目立つ被害となりました。そのため、屋根へのシート張りニーズが多数あり、そのニーズに対応できるNPOらが茨木市において拠点を構えることになったため、その拠点を支援する形での支援活動を続けていました。

シート張りは高所作業のため安全確保が必須となります。震つなの仲間には熊本地震以降、現場で試行錯誤を重ねた結果、長持ちするシートの張り方のノウハウを持ったNPOがいくつかあり、そのNPOが活動するための拠点の環境整備の他、外部団体との調整、情報発信、講習会開催の段取りと当日の運営などを行いました。



「見えづらい」被害がたくさんある、という特徴から、風化も一気に進み、今では気にする人も稀ですが、いまだにブルーシートはいくつも見かける状況です。そして9月4日の台風21号により、そのブルーシートの多くが剥がれてしまいました。

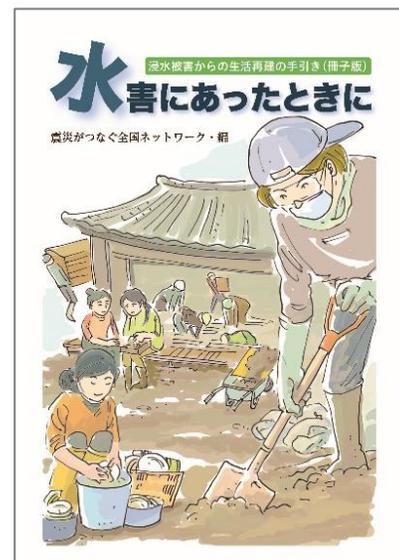
屋根の修理が完了するまでは引き続きシートの張り直しが必要になります。西日本豪雨が発生したため、支援団体の多くが大阪を離れ、西日本豪雨の支援に向かいました。震つなでは大阪の対応も重要と判断し、シート張りの担い手を増やすために「長持ちするシートの張り方講習会」を府内各地で開催し、延べ200人以上が受講しました。台風の影響もあるため、今しばらく大阪への対応も継続する予定です。



一方、西日本豪雨の対応としては、震つなが2017年3月に発行した「水害にあったときに」(浸水被害からの生活再建の手引き)への問い合わせが殺到しました。延べ200件を超えるご依頼をいただきました。そのうちおよそ1,800冊/160件が個人からのお問合せでした。支援団体や社協、行政からの大口依頼を合わせて、20,000冊以上を現地にお送りしました。

また、水害対応の建物への対応や制度に関する相談会の必要性が高まっていたことから、8月下旬からはRSYと連携して、家の相談会の開催を行っています。加えて、愛媛県西予市野村地区において、震つな会員団体が足湯を通して地元の担い手とともに支援活動を展開することになったことから、足湯の講習なども手掛けています。

地震・水害、どちらの災害もまだまだ終わっていません。震つなとして何ができるのか、を日々問いつつ、支援を継続していきます。



出典：震災がつなぐ全国ネットワーク

全国災害ボランティア団体ネットワーク（JVOAD）

特に被害の甚大であった岡山・広島・愛媛各県にスタッフを派遣して、各県の情報共有会議を地元中間支援 NPO と連携して開催し、これまで全体で約 250 の NPO 等の参加を得ました。また、行政および災害ボランティアセンターと NPO とのパイプ役として、現在も各被災地での調整や、内外への情報発信を継続しています。

一方、今回は府県をまたぐ広域災害であることから、各県等で共通する課題や県等だけでは対応が難し

い案件等について情報を共有し、全国域の三者（内閣府・支援 P・JVOAD）が連携し、対応策の方向性を共有したり、可能な具体的な支援を実施したりするための「全国情報共有会議」を設置・調整しました。これまで7回開催し、ボランティアへの参加促進や留意事項に関する啓発チラシを作成したり、必要な物資の調整、制度や法などの解釈の共通理解を示したりするなどの対応を行っています。

**西日本豪雨の被災地では、
まだまだボランティアの力を
必要としています。**

必要な支援は力仕事ではありません



イラスト：山田光

街頭募金活動・寄付

- 6/23, 24 名古屋駅ナナちゃん人形前にて実施。23日は15名、24日は18名のボランティア参加
 7/14, 15, 16 名古屋栄三越店ライオン像前にて実施。14日は16名、15日は14名、16日は21名のボランティアが参加。





認定特定非営利活動法人 レスキューストックヤード

2018 年度 被災者支援活動報告書

2018 年 3 月 31 日発行

認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード

名古屋事務所

〒461-0001 名古屋市東区泉 1-13-34 名建協 2 階

tel 052-253-7550

fax 052-253-7552

e-mail info@rsy-nagoya.com

web <http://rsy-nagoya.com/>

twitter rescuestockyard

facebook rsy.nagoya

七ヶ浜みんなの家きずなハウス

〒985-0802 宮城県宮城郡七ヶ浜町吉田浜字野山 5-9

tel 090-9020-5887

facebook rsy.kizuna